

# 明神岳からジャンダルム飛驒尾根

堀江 誠克

■山行年月日:2021年8月8日～11日

■メンバー:堀江誠克

■コースタイム:

8月8日

5:00 沢渡駐車場=5:30 上高地～6:40 岳沢7番～9:25V峰～IV峰～III峰～10:40II峰～11:20 主峰～12:35 前穂高～14:35 奥穂高～15:20 穂高岳山荘

GWに敗退したルートをトレースすべく、同じルートをたどってみる。明神の主峰から先は積雪期に経験済みだが、V峰から先はどうなっているのか。来年のGWに向けての偵察の意

味もある。前日に沢渡駐車場に入り仮眠。始発のバスで上高地へ。天気は上々。岳沢トレイルに入り、7番から南西尾根へ。稜線に上がると素晴らしい眺望で風も冷たく爽快だ。GWの時は荷物も重く、時間がかかったが、今回は穂高岳山荘泊りの予定なので荷は軽い。軽快に高度を上げ、あっという間にV峰。一般登山道ではないので、ルートが不明瞭のところもあるが、IV峰、III峰と順調に進み。II峰へ。ここは2pの懸垂下降がある。超軽量ハーネスをつけ、超軽量エイト環、超軽量7mm×60mで懸垂下降に移る。支点



右から明神主峰、II峰、III峰



明神Ⅱ峰からの懸垂下降

はしっかりしており、安心だ。あわよくば、クライムダウンができるのでは？と思っていたが、危険だ。GWの雪がついている状態では無理だろう。逆コースになるところは、しっかり確保しながらのクライミングとなる。Ⅱ峰から主峰へは指呼の間。いったん下って、前穂高山頂へ。思ったほど人がおらず、安堵する。

前穂高から一旦下り、吊り尾根経由で奥穂高。ガスが切れて北尾根が見えてくる。ダイナミックでいいなあ。やっぱり、穂高は最高だ。山頂でのんびりしていると雲行きがあやしくなってきたので穂高岳山荘まで急いで下る。玄関に入ったとたんに雷雨となり、滑り込みセーフ。

#### 8月9日、10日停滞

台風による風雨強く停滞。せっかくここまで登ってきたし、特に急いで下山する用事もない。スマホの充電もで

きるし、読む本もたっぷりある。山小屋に3連泊するなど、贅沢の極みであるが雨の中歩いても何の得にもならないし、目的の一つ飛騨尾根のクライミングを放棄するのも癪だ。

#### 8月11日

5:15 山荘～5:35 奥穂高～6:15 ジャンダルムのコル～β沢下降～6:45 飛騨尾根取付き～7:38 ジャンダルム～8:22 天狗沢のコル～9:50 西穂高岳～11:05 西穂山荘～12:35 上高地

朝ごはんを食べて出発。たっぷり休んだので足取りは軽い。久しぶりに眺める雲以外の景色を楽しみながら稜線散歩。奥穂からジャンダルムのコルへ。ザックをデポし、ロープとカラビナ、スリング少々を持ってβ沢を下降する。途中、涸滝が2か所ほど出てくるが何とかクライムダウンできた。ほどなく取付きへ。飛騨尾根は亡くなった小谷部くんと正月に天狗沢から詰



め上がった思い出のルートだ。胸ラッセルで取付きまで2日、吹雪の飛騨尾根に1日、稜線上でビバークした次の日、視界ほぼゼロの猛吹雪、わずか2kmを進むのに2時間もかかって死ぬ思いで穂高岳山荘の冬季小屋に転がり込んだ。そんな飛騨尾根も夏は初心者向けの快適な岩登りが楽しめる。

ハイマツ帯をトラバースしてリッジ上へ。一息いれてクライミングシューズに履き替え、チョークアップしてスタート。高度感のあるリッジを気持ちよくソロクライミングしてゆく。特に緊張するところもなく、いくつかのピナクルもダイレクトに登って、ジャンダルムの頭へ。思っていたよりも長く楽しめた。

コルに降りて荷物をまとめ、縦走路に復帰。天狗のコル、西穂、独標と越

えて、西穂山荘へ。西穂からは大勢の登山者とすれ違い、その度に立ち止まって待つので時間がかかる。

西穂山荘から上高地への道は石の階段が延々と敷かれており、これを整備するのに要した労力に圧倒される。ロープウェイができる前には上高地から西穂高へのメインルートとして多くの登山者に歩かれていたのだろう。上高地は多くの観光客でにぎわっていて、なんか残念な気持ちになる。



右のスカイラインがジャンダルム飛騨尾根